

ろ

論究の 中核テーマ 今後は“脳”

Keyword : 感じる力, 考える力, みる・かく・つくる力

美術教育で育てるのは「感性と 情操だけか それだけか」との私見にもとづき「表現及び鑑賞の活動を通して、美術（みる・かく・つくる）の喜びを味わわせつつ、感じる力、考える力、みる・かく・つくる力を鍛え、豊かな人間力の基礎を培う。」と、「仮想平成30年版／小学校学習指導要領／第2章／第7節／小学校美術（アート）」^{*1}における「目標」の私案を提言^{*2}しました。

補説します。まず、「美術（みる・かく・つくる）」は、教科の“内容”を過不足なく網羅し、続く「感じる力（Heart）」、「考える力（Head）」、「みる・かく・つくる力（Hand）」は、この教科で獲得させるべき力（基礎基本）を示しました。

なお、脳に依拠するこの「3つの力（感性・知性・技能）」を鍛え育てることは脳づくりに直結するとの文脈を私は想定しています。

おおかた脳によって生き生かされているのがヒトであれば人間力で結ばれる「仮想平成30年度版」は人間形成（脳づくり≒人づくり）を究極目的とする美術教育の方向性を明文化したものとして是認されてよいと私は考えています。



*1 現「図画工作科」の仮想教科名（若元私見）

*2 学校教育「たかが美術教育／されど美術教育」, 2009, No.1109, PP12-17（広島大学附属小学校）